

Ⅲ 表現化に視点をあてた学習指導の展開

1 精神薄弱教育における学習指導の原則

従来から精神薄弱児の指導では、その行動や心理の特性から、いくつかの原則的なパターンが考えられ、実践されてきた。それらの原則は、極めて基本的で常識的なものであるが、列挙すると次のようなものである。

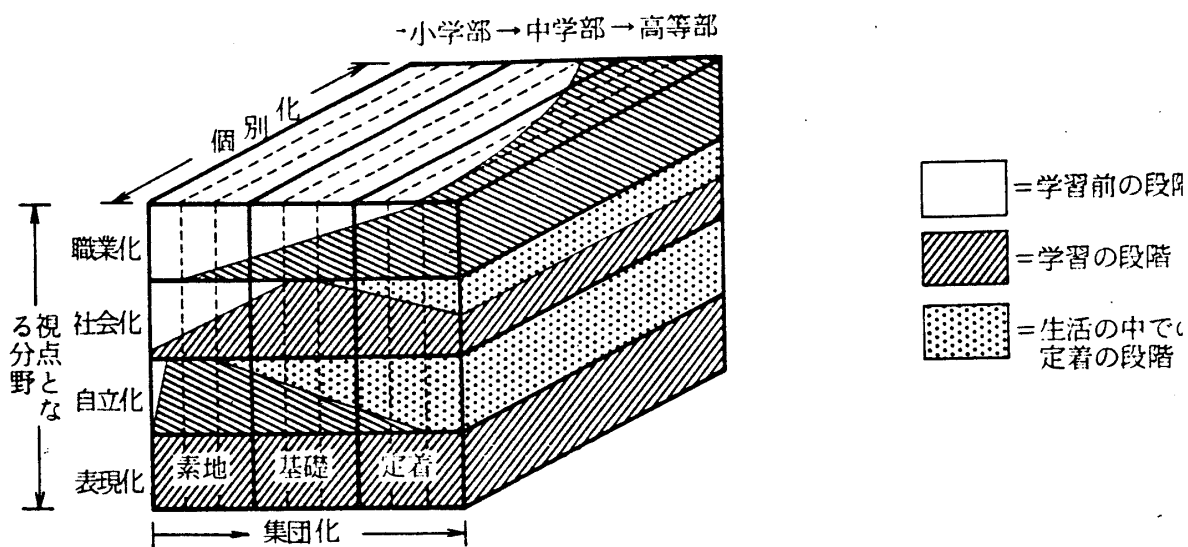
- (1) 具体的操作の原則 指導は子どもの体験的具体的行動を通して進められ、子どもの直接的な生活と結びついて定着が考えられるものであること。
- (2) スモールステップの原則 指導はできる限り抵抗の少ない内容をきめ細かく準備し、興味・関心・意欲を欠いて、ざ折感を味わわせることのないよう留意しながら諸能力・態度の定着をはかること。
- (3) 反復練習の原則 指導は理解させることだけでは十分ではない。くり返しの指導により、確実な定着・態度化をはかること。
- (4) 生活活用の原則 指導は子どもの生活の中で、そのまま生かされていくような工夫が、常に留意されていること。
- (5) 集団参加の原則 指導は人と人のかかわりを重視し、集団の中で諸能力が高められるような工夫されていること。
- (6) 個別指導の原則 指導は一人ひとりの子どもの生活経験・学習能力などの確にとらえ、個に応じた指導の徹底をはかること。

精神薄弱児の学習指導は、この原則により、一人ひとりの持ち味を生かして、意欲的に学習と取り組んでいくなかで、「生きて働く力（生活していく力）」を定着させていくことである。ここで学習指導の原則について述べた理由は、表現化に視点をあてた学習指導でも、従来からの指導と異なって新奇を追うものではなく、先に述べた原則に立って、従来からの学習指導を見直そうというのが、学習指導法と取り組んだ基本的姿勢だからである。

このことは現実の問題として、多様な子どもを前にして、「何を」「どのように」指導するかが、複雑な子どもの行動・反応を通して、十年一日の如く問題となっているのが現状である。

2 表現化と基本となる学習過程

(1) 表現化と各学部の取り組みの基本的立場



上図は、表現化に視点をあてた小学部から高等部への学習との取り組みを構造化して示したものである。図では学習段階を////で示している。表現化の学習内容は、すべての学習にかかわってくるもので、しかも、低次から高次へ、素地をつくる段階から定着の段階へと深まりをもつもので、各学部に一貫した基盤をもつものと考えられる。それに対して、自立化・社会化・職業化の各分野は、各学部・学級により学習内容の重点が異ってくる。

本校では、小学部では自立化、中学部では社会化、高等部では職業化を、学習内容の重点において、指導計画を作成し取り組んでいる。

各学部の表現化に視点をあてた具体目標・指導の重点は次の表に示す通りである。

学部	表現化に視点をあてた具体目標	学年	学年別指導の重点
小学部	自立：日常生活習慣の基本的な事ごらを身につけ、人に迷惑をかける生活態度を養う。 社会：生活の中で、みんなと仲よくきまりよい生活ができるようになる。 表現：具体的な活動を通して、表現の素地をつくる。 職業：身近な事ごとに、こつこつと取り組む態度を養う。	低	1. 遊びを通して、学校の中で表現活動の基礎となる諸能力・態度を養う。 2. 身辺処理の基本的な事ごらを、自分で処理しようとする態度を養う。
		中	1. 具体的な活動を通して、表現する力の素地をつくる。 2. 日常生活習慣の基本的な事ごらを、自分で処理しようとする態度を養う。
		高	1. 具体的な活動を通して、表現する力を養い、生活の中で生かす態度を養う。

		高	2. 日常生活の基本的な事がらを身につけるとともに、友だちの中で行動しようとする態度を養う。
中 学 部	<p>自立：基本的な生活習慣を身につけ健康安全に対する関心を高める。</p> <p>社会：学校のきまり、身近な社会生活のきまりを理解し、社会に対する関心を広げ、集団参加の能力・態度を養う。</p> <p>表現：表現の基礎的基本的能力・態度を養う。</p> <p>職業：仕事に関心をもち基礎技能の習得に努め、最後までやり抜く態度を養う。</p>	1	1. 学校や家庭の生活に必要な表現の基礎を養う。 2. 集団生活の初歩的なきまりを理解し、望ましい社会参加の態度・技能を育てる。
		2	1. 学習の場の広がりに合わせて、表現の基礎を養う。 2. 身近な社会生活や仕事について関心を高めすすんで集団生活に参加する態度・技能を育てる。
		3	1. 身近な社会生活に必要な表現の基礎を養う。 2. 身近な社会のしくみや働き、職業に関心をもち、職業に対する態度や基礎的な技能を養う。
高 等 部	<p>自立：生活の中で、自立化の定着をめざし、進んで健康で安全な生活態度を養う。</p> <p>社会：社会のしくみや働きに関心を深め、対人関係・集団生活の能力・態度を養う。</p> <p>表現：進んで自らの表現力を活かしていこうとする態度を養う。</p> <p>職業：社会とのつながりの中で、職業の基礎的な知識・技能の習得に努め、進んで働く態度を養う。</p>	1	1. 身近な生活の中で、表現の定着に努める。 2. 社会の一員としての自覚を育てるとともに作業と取り組む中で、職業に対する知識・技能・態度を養う。
		2	1. 作業とのつながりの中で、表現の定着に努める。 2. 社会生活に対する理解をさらに深め、職業に対する知識・技能・態度を深める。
		3	1. 家庭生活・職業生活に必要な表現力の活用に努める。 2. 作業や職場実習を重視し、職業を通して、社会への巣立ちの準備に努める。

(2) 表現化と基本となる学習過程

表現化に視点をあてた学習指導では、前項の基本的立場から、将来の社会自立をめざし設定された経験内容（段階別教育内容表による）を、生活の中で、「生きて働く力」として定着させていく過程である。そのために必要な教育課程の編成の諸問題と取り組んできたわけであるが、昨年度（昭和55年度）から、学習指導上の諸問題と取り組み追究してきた。

その中で、表現化に視点をあてた学習展開が、目標に向けて強化されていくためには、どのような学習過程をふまえる必要があるかを、具体的な実践を通して検討した。

本校が仮説として設定した基本となる学習過程は、下表のとおりである。

導入の段階	展開の段階	発展の段階
① 興味・関心・意欲の発生 ↓ ② 興味をもつ 関心をもつ } 意欲をもつ	① みんなの中で生き生きと 取り組む。 意識して取り組む ↓ ② 興味・関心・意欲の持続	① よろこびをもつ ↓ ② 生活の中でわかる。

表現する力が、生活の中で、「生きて働く力」となって定着に向うためには、授業に意欲的に取り組み、それが持続され、自分のものになっていくことが大切である。授業の展開もその点が十分配慮されていなければならない。

しかし、精神薄弱児の実態から考えて、この基本となる学習過程は、1時間の授業を問題とするのではなく、長い目でみて、そのうちにこのような学習過程の軌道にのればよいという考えがあった。結局、この考え方は間違いであり、1時間の授業の積み重ねを大切に、授業に効果的に働いた指導法について検討し、追求してきた。

3 表現化と学習指導法の工夫

ここに列挙した指導法は、昨年度から今年度にかけて、授業を通して検討されたものである。また、各項目は、小学部から高等部までの実践を無秩序に羅列している。中には、もっと細分化した方がよいものもあるし、授業の中では、いくつかの項目が組み合わせられていたものもある。

今後、さらに検証が必要だが、列挙すると次の通りである。

(1) 導入段階での指導法

点検する	学習に適した服装、学習用具、教材、学習環境を点検する。
確認する	作業工程の見本を提示し、取り組みを確認する。
気づかせる	自分で気づかせるようにする。
見つけさせる	自分で見つけさせるようにする。
発言させる	言えることをさがして、みんなに発言させる。
読ませる	本時目標を板書し、全員が大声で数回読む。
話し合う	生活の中でどう生かすか、よく話し合っておく。